

2016年3月17日

ユニアデックス U-Cloud[®] と他基盤間のデータ連携を容易に実現する 「U-DataExchange[™] サービス」を販売開始

ユニアデックス株式会社（本社：東京都江東区、社長：入部 泰、以下 ユニアデックス）は、日本ユニシスグループが提供するクラウドサービス「U-Cloud^(注)」と他基盤間のデータ連携を実現する、「U-DataExchange サービス」を本日から提供開始します。

企業ではクラウドサービスの利用が加速し、利用形態・適用領域が多様化する現在、お客さま固有のニーズに合わせ、クラウド環境同士、もしくはクラウド環境とオンプレミス環境間のデータを連携することが求められています。

お客さまでは、販売管理や在庫管理などの基幹系システムは、クラウド基盤「U-Cloud IaaS」を利用し、営業支援などの分析系システムは、一般的な SaaS サービスを利用するようなケースがあります。このような場合、基幹系システムと分析系システムの間で、販売情報や在庫情報などのデータを連携させる仕組み作りが必要となり、複雑なプログラム開発が発生し、コストと時間を要していました。

本サービスは、このデータを連携させる仕組み作りをソフトウェア（U-DataExchange）とクラウド基盤（U-Cloud IaaS）をパッケージ化したサービス型として提供します。これにより、「U-Cloud」サービス環境にあるシステムと、他の基盤環境にあるシステム間の異なるデータ形式の変換を非常に簡単な操作で可能にし、データ連携を「すばやく」「簡単に」「スモールスタート」で利用することができます。

ユニアデックスは、2014年10月に、「お客さまの ICT 環境最適化の実現」のために「クラウドがつながる・クラウドがみえる」ことをコンセプトとした「クラウドフェデレーション」を発表しました。本サービスは、「クラウドフェデレーション」の一つの構成要素となります。

ユニアデックスは、「U-DataExchange サービス」に関して、今後3年間で1.6億円の売上を目指します。今後も「クラウドフェデレーション」の構成要素を拡大するため、クラウド間のデータ連携を実現するさまざまなサービスの提供を予定しています。

「U-DataExchange サービス」の特徴は、以下のとおりです。

1. 簡単な操作

データ連携を行いたいシステム間に、変換元と変換先（データベース、アプリケーション、ファイル、ネットワークなど）に応じたアダプターを用意することで、既存のシステムに手を加えることなく、データ形式を変換できます。また、データ連携処理やデータ形式の変換処理も GUI 操作で簡単に設計できるため、ノンプログラミングにより、データ連携に関わるシステム開発費を大幅に削減できます。

2. スモールスタート利用ができる

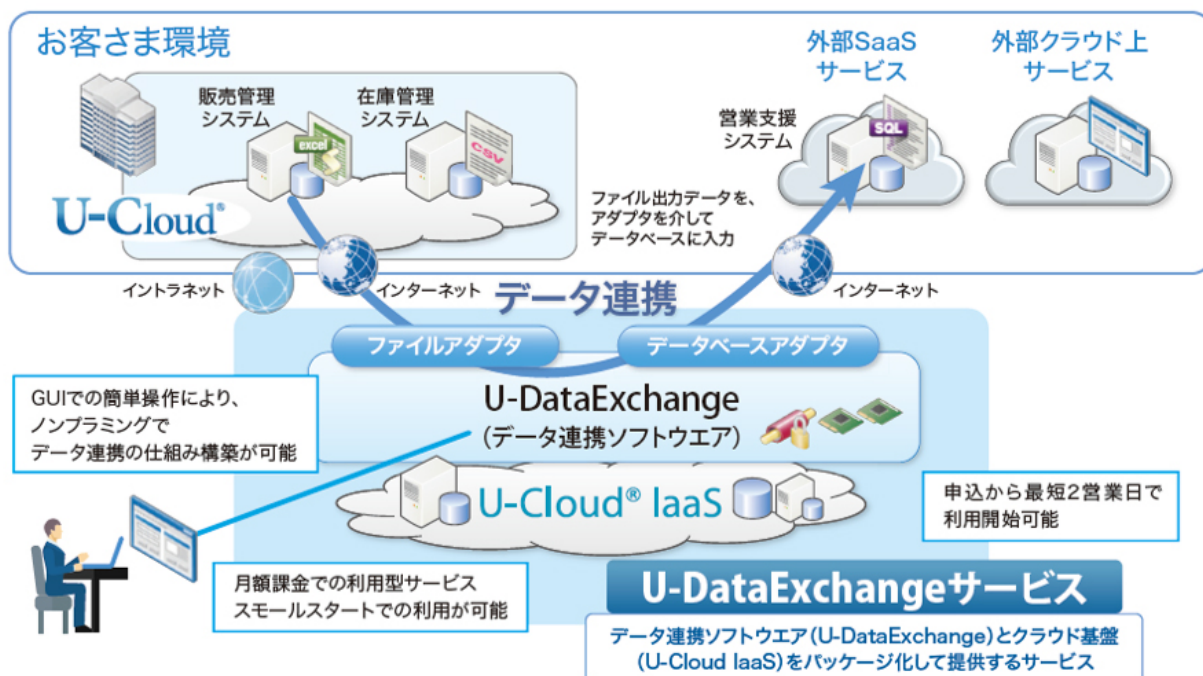
月額課金の利用型サービスのため、初期投資を抑えたスモールスタートで利用できます。

3. すぐに始められるサービス

データ連携ソフトウェア（U-DataExchange）とクラウド基盤（U-Cloud IaaS）をパッケージ化して提供するため、申し込みから最短2営業日で利用開始できます。

本サービスは、初期費用は150,000円（税別）から、月額標準セット利用料は210,000円（税別）から利用できます。

■ 「U-DataExchange サービス」の概要図



以上

注：U-Cloud

日本ユニシスグループが提供するクラウドサービスの総称です。クラウド基盤「U-Cloud IaaS」はじめ、PaaS レイヤ、SaaS レイヤのサービスを提供しています。

※関連リンク

- ・「U-DataExchange™サービス - つなげてデータ連携 -」
<http://www.uniadex.co.jp/service/cloud/u-dataexchange.html>
- ・「クラウドフェデレーション」 <http://www.uniadex.co.jp/service/cloud/federation.html>

※ U-DataExchange は、ユニアドックス株式会社の商標です。

※ U-Cloud は、日本ユニシス株式会社の登録商標です。

※ その他記載の会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

※掲載のニュースリリース情報は、発表日現在のものです。その後予告なしに変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。